



「北海道の開拓とインフラ整備の歴史：治水史編」

～ 豊平川流域治水と札幌本府から近代都市札幌への発展と未来 ～

講師のご紹介

<基調講演> 「豊平川の治水計画史」

～はじまりは古市公威、そして気候変動対策に向けて～

品川 守 (シナガワ マモル)

略歴／ 特定非営利活動法人 公共環境研究機構 特別研究員、元 国土交通省 北海道局長、工学博士、技術士(河川、砂防、海岸) / 昭和24(1949)年 小樽市生まれ、昭和51(1976)年 北海道大学 工学研究科修士課程(土木工学専攻)修了、同年 北海道開発庁入庁、石狩川流域整備計画や北海道総合開発計画の策定などに参画。： 著書 新版 捷水路(共著)など

講演の概要／ 札幌の街づくりは開拓使が豊平川扇状地に中心市街地を形成したことにはじまる。初期の課題は扇状地上を縦横に流れていた暴れ川を治めることにあり、百万都市を流れる屈指の急流河川の治水対策は幾多の計画を経て現在も続いている。一方、開拓の進展や市町村合併・市街化の急速な進展など街は拡大を続け、流域下部の沖積低平地を拓くことにより現在の広大な札幌市が形成されてきた。気候変動に備えた対策の推進と次の街づくりのために豊平川の治水特性を探る。

<講演-01> 「水の都」の前史・札幌扇状地の形成

～扇状地を造った暴れ川・豊平川の原始の姿を探る～

宮坂 省吾 (ミヤサカ セイゴ)

略歴／ 特定非営利活動法人 HRCG 北海道総合地質学研究センター シニア研究員 理学博士
1943年 長野県生まれ、1959年 札幌市に移住、1987年 学位論文「日高山脈の形成史」で理学博士、2002～2013年 非常勤講師 北海道大学・北海道教育大学・北見工業大学、2005～2010年 日本地質学会 北海道支部長： 著書「札幌の自然を歩く(第3版)」、「北海道自然探検 ジオサイト107の旅」、「揺れ動く大地 プレートと北海道」、「札幌の地名が分かる本」(いずれも共著)

講演の概要／ 豊平川の祖先河川は硬石山を過ぎてから火砕流台地を側刻して平岸扇状地を造った後、藻岩山などの西部山地の東縁を北流して札幌扇状地を形成した。西暦1801年頃の大洪水はサッポロ川からツイシカリ川への流路を形成し、現在の流域の基本ができあがった。アイヌ文化期の集落は、扇状地の名残川・コトニ川に沿って広がっていた。開拓使は豊平川などを水運や工業に利用したほか、扇端域の湧泉池を庭園に組み込んで「水の都」の花とした。講演では扇状地の形成史を古地図・古写真で紹介し、自然河川時代の豊平川を偲びます。

<講演-02> 初期道庁時代の豊平川近傍原野における土地開発

～札幌湿地原野の開発～

塩原 達彦 (シオバラ タツヒコ)

略歴／ 北海道産業考古学会 会員、元 北海道庁 主任技師

講演の概要／ 豊平川近傍の湿地原野は、開発の困難さから北海道の中心地札幌近傍にもかかわらず、ほぼ手つかずの状態に置かれていた。明治19年北海道庁が設置され、この湿地原野開発が本格的に取り組まれることとなった。本講演では、「札幌原野排水及道路」という総称で実施されたこの一連の工事と、明治28年に至り実施された「軽川花畔原野排水」、「茨戸（花畔）銭函間運河」工事について、その内容を紹介する。

<講演-03> 「石狩川流域を含む北海道道内の水循環

リスク情報を踏まえた世界展開に向けて」

山田 朋人 (ヤマダ トモヒト)

略歴／ 北海道大学大学院工学研究院 土木工学部門 河川・流域工学研究室 教授
The9th GEWEX-OSC 国際会議 実行委員会 委員長

講演の概要／ 講演者らは、地球規模の気候予測から流域スケールにおける将来の降雨特性に至る洪水リスクの一連のプロセスを分析・評価し、それに基づく地域の治水を含む地域づくりに関する研究を行っています。本講演では、豊平川を含む石狩川流域を対象とした研究成果と共に、講演者が代表を務めている内閣府主導の研究プロジェクトならびに本年7月に札幌で開催される「第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議」について紹介します。